

# 歴史的接戦の米大統領選

## 米国民は軍の最高司令官に

### 女性を選ぶ覚悟があるのか

ジャーナリスト

泉 洋海

米国の大統領選まであと1カ月となった。民主党のバイデン大統領が選挙戦から撤退した後、指名されたカマラ・ハリス副大統領(59)とドナルド・トランプ前大統領(78)とが歴史的な接戦を繰り広げている。世論調査の全米平均ではハリス氏がわずかにリードしているが、勝敗の



流れを作ったのは党重鎮のペロシ元下院議長だった

カギを握る激戦7州では横一線。正副大統領候補によるテレビ討論会などの公式イベントも終え、両陣営は集会や電話による訴えなどラストスパートをかける。

#### 異例づくめ

そもそも今回の大統領選は異例ず

くめだった。民主党はバイデン大統領の再選を目指すし、予備選を終え、党大会での指名を待つばかりだった。ところが、6月下旬に行われたテレビ討論で、バイデン氏は精彩を欠き、高齢や健康への不安が一気に噴き出した。

米有力紙にハリウッド大物俳優、民主党内の有力者らが次々とバイデン氏に撤退を迫った。討論

会後に実施された世論調査では、バイデン氏の支持はトランプ氏よりも6ポイント低くなっていた。「過去最大の差」だったという。3週間後、バイデン氏は選挙戦から撤退し、ハリス氏への支持を表明した。

ハリス氏への一本化は早かった。クリントン元大統領夫妻が支持を表明した後、流れを作ったのは党重鎮のペロシ元下院議長だった。ハリス氏はほどなく党の候補指名に必要な代議員数を上回る支持を確保し、8月の党大会で民主党の大統領候補に指名された。

副大統領としてバイデン氏とともに選挙戦に臨んでいたハリス氏が、資金やスタッフを引き継ぎやすかったこともある。だが、テレビ討論以降、あわや暗殺かと思われた銃撃事件で支持者を固めつつあったトランプ氏がホワイトハウスへ戻ってくるかも…との恐怖から、民主党は土壇

場でまとまったのだろう。

バイデン氏が大統領候補だった頃、副大統領としてのハリス氏の評判は芳しくなかった。選挙分析サイト「ファイブサーティエイト(538)」の世論調査によると、バイデン氏の撤退直前のハリス氏は「好ましくない」が5割を超え、「好ましい」より約15ポイント多かった。しかし、10月3日時点では「好ましい」が11ポイント上回っているという。

#### 2度の襲撃

トランプ前大統領にとっても異例続きの選挙戦だったに違いない。7月には、東部ペンシルベニアで演説中に右耳に銃弾を受けた。本人は命に別条はなかったが、集会に参加した1人が亡くなり、数人が負傷する惨事となった。シークレットサービスに抱えられて退場する前に、支持

者に無事を伝えようと「フアイト」と叫び拳を突き上げた写真は、背景に星条旗が棚引き、トランプ氏の強さを象徴する印象的な1枚となった。

そのまま、トランプ氏が流れを引き寄せるかと思われたが、バイデン氏が撤退し、ハリス氏が新たな候補者として躍り出て、若者や女性らの支持も取り込み流れが変わったように思える。

トランプ氏は9月、フロリダ州で再び標的になった。ゴルフのプレーをしていた場所の近くで、銃を持った男が拘束された。男は12時間前から現場周辺にいた疑いがあり、暗殺未遂の可能性があるという。

トランプ氏は10月に入って、7月に銃撃されたペンシルベニア州の現場で再び集会を開いた。「銃撃が起きた恐ろしい16秒間は時が止まったようだった」と振り返る。「暗殺者は私を黙らせようとしたが、米国を貧困や悪から救おうとする私たちの決意を揺るがすことはできなかった」と暴力に屈しない決意を表明した。激戦州の中でも最も人口が多く重要な位置づけとなる同州で、強い

指導者を印象づけようとした。

### 歴史的接戦

9月のテレビ討論会では、ハリス氏とトランプ氏が経済や妊娠中絶、移民・国境管理などについて議論した。ハリス氏は会の初め、トランプ氏の方へ歩み寄って握手をするなど余裕を感じさせた。妊娠中絶では「女性の体のことは自分で決める権利がある」と主張してトランプ氏を厳しく追い込んだ。

一方のトランプ氏は終始厳しい表情だった。移民・国境問題では「何百万人もの不法移民が米国に流入し、仕事を奪っている」と強調。「スプリングフィールドの移民は、ベツトの犬や猫を取って食べている」と語り、司会者からそのような報告はない、と指摘された。CNNテレビの緊急調査によると、ハリス氏が勝ったとした人は63%、トランプ氏は37%だった。

投票票まであと1ヵ月に迫り、フアイブサーティエイトとABCニュースの世論調査によると10月6日現在、全米でハリス氏が48・4%と、トランプ氏(45・9%)を2・



あの最も高いガラスの天井は破られていない

イント以下の差で、無党派の動向やちよつとした出来事で勝敗が変わる可能性がある。

米国内では「オクトバー・サプライズ(10月の波乱)」と言われる、投票直前に選挙戦を大きく揺るがす出来事が起きるかどうかにも注目が集まる。2016年大統領選では、ヒラリー・クリントン元務長官が、長官時代に個人メールで機密情報をやりとりしていた問題で、連邦捜査局(FBI)が捜査を再開した。2020年にはトランプ氏が新型コロナウイルスに感染するなどして、それぞれ勢いがそがれたとされる。

仮にハリス氏が勝利すれば、米国では史上初の女性大統領となる。

2016年にヒラリー氏が敗北した際に「あの最も高いガラスの天井は破られていないが、きつと誰かがいつか、私たちが思うより早くかなえてくれるだろう」と語った。米国民は今度こそ軍の最高司令官に女性を選ぶ覚悟があるのか。トランプ氏支持者の意向は世論調査の数字に出にくいともされる。米国民の選択を注視したい。

5ポイントリードしているが、わずかの差だ。さらに激戦7州では熾烈な争いが繰り広げられている。例えばペンシルベニア州ではハリス氏の47・8%に対し、トランプ氏が47・3%とその差は0・5ポイント。ノースカロライナ州もトランプ氏が48・1%なのに対し、ハリス氏が47・3%と0・8ポイント差だ。このほかネバダ、ジョージア、アリゾナ、ミシガン、ウィスコンシンの各州でも2ポ